



地球のかおり、この人たちのルーツは？

勝手な想像を楽しんだ。上記は、映画のワンシーンのように思えた。

まさか、女優さんではないのだろうか、そんな印象を持った。俄然、街散策が面白くなった。

映画に、登場するようなレストランや、出会いは、様々。

期待が膨らむ。時間が、あ～と言う間に・・・

~~山はみどり 野に花 人にはころろ~~

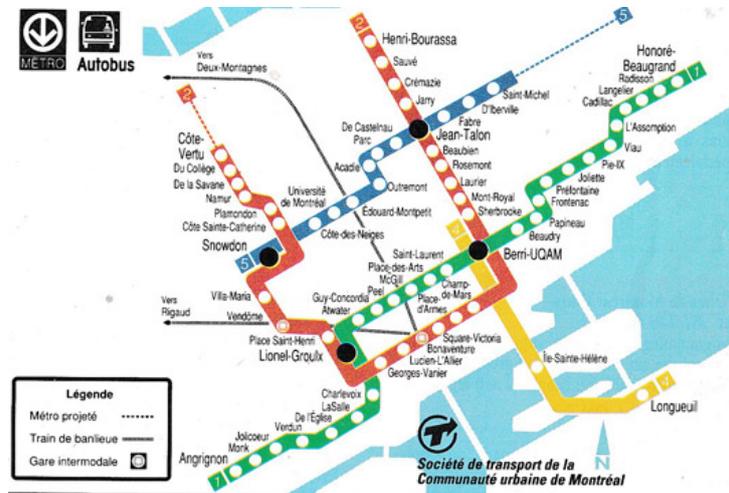


～～その時の、モントリオールの印象～～

ある旅記録に、興味深いメモや、記録があったので、ご紹介。
ニューヨークから、レンタカーにて、モントリオールへ、アクセスしたこともある。
ご紹介するのは、**カナダ、カルガリーから、飛行機でモントリオールへ。**

- 11時28分、エアーカナダで、モントリオールへ、
カルガリー、シャトー空港ホテルに宿泊したので、ゆっくりした。
- 11:30～3:30、4時間のフライト。モントリオール到着、17時30分。
カルガリーとモントリオールの時差は、2時間。北米大陸、西部と東部の時差は4時間。
- 同じカナダでありながら、街並みも言葉も雰囲気も、異国に来た印象である。
- レンタカー。時速70～80キロで走行。道路の路肩で休憩という雰囲気にない。
車に自信のある私にも、慣れるのに時間が必要。
- 雨も降っていた関係で、暗く、ホテルを見つけるまで、相当時間がかかり、
勉強になる、いい体験をした。
- 午後9時過ぎ、街へ、夕食に出かける。
オニオンスープ、ワントンスープ、そして、ビーフライス、と記録している。
- 夜の雰囲気は、環境悪く、犯罪の、においもして、情勢判断して、
早く、ホテルへ帰館する。
- 人が、多く集まる都会には、つきものの、表と裏がある。
- ロッキー山脈のある、カナダ西部、カルガリー市内は、清掃が、行き届いているが、
モントリオールは、ダメ。フランス人だから、かな。
- モントリオールは、当初、フランス人。イギリス、アメリカに侵攻されたものの、
フランス人の方が多く、フランス気質の街のようである。
- すべての表示が、フランス語。親日感情も今ひとつ。
日本人も、このモントリオールには、いい印象が少ないのではないかとメモ。
- ホテルで、体重チェック。72キロ。旅慣れたためか、
1ヶ月前と同じとは、結構なこと。

～～翌日、モントリオール市内と近郊を探訪～～



- 新聞記事は、少年犯罪、戦争、警察・・・など
印象の悪い記事ばかりだった。
- しかし、英国オープンで、アメリカの選手が優勝。
大きく紙面に出ていたのが、印象に残った。
- モントリオール市内探訪。フランス風。新旧が同居した都会。
ヨーロッパ風の印象が強く残っている。
- 地下鉄を利用。ドーチェスターのインフォメーションで、
ケベック州の資料を入手。
- ノートルダム大聖堂を中心に、旧市街を探訪。
カナダの街というより、ヨーロッパの街である。
- 人間ウォッチングしていると、楽しい、興味深い街である。

その後、万国博会場の跡地や、オリンピック跡地、
遊園地になったり、イベント会場に活用されたりと、サントエレーヌ島、
セントローレンス河、等々、記録している。

目的があったので、もう一泊して、東・トロワリビエールへ。